

PRESS RELEASE

For immediate release

[プレスリリース]

スタンダードチャータード銀行、 盲目のランナー著の絵本を題材に 小中学生向け作文・絵画コンテストの募集開始

[2007年3月8日、東京]

英国金融大手スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、在日支店:東京都千代田区、在日総支配人:マーク・デヴァダソン)は、パラリンピック金メダリストの盲目のランナー、ヘンリー・ワンヨイケ氏が著した絵本「Run with Me ~ 僕と走ろう」を国内にて無料配布し、小中学生向けに「人生を変える友だちとの出会い」をテーマにした作文・絵画コンテストを実施します。

現在、世界には4,500万人の視覚障害者がおり、成人は5秒に一人、子供は1分に一人の割合で視覚を喪失しています。しかし、75%の視覚喪失は回避あるいは治療可能であり、その手術費用はわずか30米ドル。この回避可能な視覚障害者の支援をすべく、同行は社会貢献活動(CSR)の一環として視覚障害者の視力回復支援活動(Seeing is Believing)に世界規模で力を入れています。

「今回の絵本配布および作文・絵画コンテストの実施は、子供の頃からこのような問題に意識を持ってほしい、障害を持ちながら様々な困難を克服したヘンリーと、そして友人であり伴走者であるジョセフとのパートナーシップを知ってほしい、そして「人生を変える友達との出会い」について考える機会を持ってほしいという願いから企画いたしました。本活動により、子供たちがふと立ち止まって「友達」や「思いやり」について考えるきっかけとなってくれることを心より願っております。」(スタンダードチャータード銀行 在日総支配人:マーク・デヴァダソン)

募集期間は2007年3月8日から同年6月30日まで。コンテスト応募希望者には、学校・クラス単位で簡易版絵本を無料配布します。(申込先:03-4360-8790) *コンテストの詳細は別紙をご参照ください。

なお、本コンテストの募集開始に先立ちまして、**立教女学院小学校、文教大学附属小学校、淑徳小学校、立命館小学校、品川区第二延山小学校の皆様にご賛同いただき、参加を表明いただいております。**当行は、この輪が広がり、1つでも多くの学校、1人でも多くの小中学生に知っていただくために、3月8日から10日まで、チャリティレセプションパーティ、小学校訪問、パートナーシップ体験型リレーマラソン大会など各種イベントを実施し、更なる啓蒙活動を行います。

スタンダードチャータード銀行では、既に100万人の視力回復実現に十分な寄付を集めており、今後2010年までに1,000万人の治療・予防援助を目指しています。

なお、このたびのコンテスト開催を記念して、ヘンリー氏の絵本「Run with Me--僕と走ろう」を、御紙誌の読者の方へのプレゼントとして対応をさせていただいておりますので、以下までお気軽にご連絡ください。なお、冊数に限りがあるため、ご希望に添えないこともございますが、予めご了承ください。

お問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行 在日支店
コーポレートアフェアーズ部

部長 クリストファー・ドミター
Tel: 03-5511-1361 / Fax: 03-5511-9311
E-mail: Christopher.Domitter@jp.standardchartered.com

シニアマネージャー 洲崎 由美子
Tel: 03-4360-8791 / Fax: 03-4360-8799
E-mail: Yumiko.Suzaki@jp.standardchartered.com



「Run with Me ~僕と走ろう」作文・絵画コンテスト 詳細:

作品募集期間: 2007年3月8日より6月30日 当日消印有効
応募・参加資格: 中学三年生以下の児童・生徒
募集内容: 作文部門および絵画部門の2部門(詳細は募集要項をご覧ください。)
審査員: (アイウエオ順)
荻原健二(参議院議員)、宝田良一(公立大学法人横浜市立大学理事長)、伊達公子(元プロテニス選手)
古田敦也(ヤクルトスワローズ選手兼任監督)、LaFleur-宮澤啓子(CLUB SAH代表取締役)
マーク・デヴァダソン(スタンダードチャータード銀行在日総支配人)他
結果発表: 2007年10月(日時未定)に当行のホームページ等を通じて発表いたします。

世界におけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、アジア・太平洋地域、南アジア、中近東、アフリカ、英国、南北アメリカの5カ国以上で1400の拠点を有する、世界でもっとも国際的な銀行の一つです。6万人の従業員を擁しており、その国籍は80にのぼります。

スタンダードチャータード銀行は、リテール(小口金融)およびホールセール(大口金融)業務の両面でサービスを提供しています。リテール銀行業務では、個人顧客および中小企業に向けてクレジットカード、個人ローン、住宅ローン、預金、資産運用のサービスを展開しています。また、ホールセール業務では、企業および団体に対する、貿易金融、キャッシュ・マネジメント、貸し付け、証券サービス、外国為替、債権資本市場、コーポレートファイナンスを手がけています。

スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100構成銘柄の上位25社の一つに数えられています。

また、昨年末には、2006年The Banker(ザ・バンカー)賞において最優秀世界銀行賞(グローバル・バンク・オブ・ザ・イヤー)をはじめ、アジア太平洋とアフリカの主要2地域において地域最優秀銀行賞、6カ国での最優秀銀行賞、および最優秀CSR(企業の社会的責任)賞も合わせて獲得しました。

世界におけるSCBのウェブサイト(英語): www.standardchartered.com

日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

日本におけるスタンダードチャータード銀行の歴史は、横浜にはじめての出張所を開設した1880年にさかのぼり、開設から127年目を迎えます。東京支店は山王パークタワー(千代田区)にあり、現在180人、また富裕層個人向けプライオリティバンキングの丸の内支店は東京駅皇居側の岸本ビル(千代田区)にあり、現在80名を擁しています。うち日本人社員は94%にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カस्टディ、トレジャーリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供、そして個人のお客様にはプライオリティバンキングサービスを提供しながら成長を続けています。

スタンダードチャータード銀行は過去1年間、Permatta Bank(インドネシア)、韓国第一銀行(韓国)、ANZのアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit(香港)、台湾の新竹商業銀行等の一連の買収戦略と、自身の自立成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。また、中国では150年にわたり事業発展を進めてきました。事業拠点を香港におき、珠江デルタでの成長を続ける一方で、その勢力をさらに北に拡張すべく、中国のネットワークを通じて現地の銀行との提携の機会も探求しています。

スタンダードチャータード銀行は、視力回復およびHIV/AIDS教育の分野で地域組織を支援するCSRプログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。

視覚障害者支援活動「Seeing is Believing」について

「Seeing is Believing」は、世界中の視覚障害問題に取り組む、スタンダードチャータード銀行のグローバルコミュニティプログラムで、2003年にスタートしました。現在、世界中で4,500万人の方が視覚障害に苦しんでおり、そのほとんどの方が発展途上国に住んでいます。この問題の本当の悲劇は、80%の視覚障害は避けることができるかあるいは治療が可能だということです。実際に、30USドルあれば視力回復が可能です。視力の回復は、ヘルスケアにおいて最も費用対効果の高い治療であり、個人、家族、社会、経済に大きな影響を及ぼします。

2003年、当行の創設150周年を記念し、視覚障害者のために活動する団体と共に、視覚回復手術のための寄付活動、「Seeing is Believing」プログラムを開始しました。2003年当初の目標は、当時の従業員数と同じ28,000人の視力を回復させることでした。当行はこの目標額の2倍を上回る募金に成功し、さらに100万人の視力実現に十分な寄付を集めており、現在は視力回復のみならず予防措置も講じることによって、2010年までに世界の20カ国以上で1,000万人を助けるという第3フェーズに入っています。

日本におけるスタンダードチャータード銀行プライオリティバンキングのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp/cb/pb/

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.co.jp

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): www.standardchartered.com/jp/index.html